学校図書館活用のススメ（小学校編）
～読書指導の改善・充実に向けて～part1

学校教育課通信
令和３年　９　月　７日　第１６９号
編集・発行：県南教育事務所 鈴木正和

令和２年度より新学習指導要領が全面実施されました。その中で「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に、学校図書館を活かすことが明記されています。2019 年 4 月 22 日の教育新聞において文部科学省総合教育政策局地域学習推進課長　中野理美氏は「これからの Society5.0 の時代に生きていく子どもたちは、読解力や表現力、感性や想像力を育んでいくことが必要である。変化が激しく予測できない時代において、自ら課題を見つけ、それを解決していく力や学び続ける力も求められており、学校図書館の果たすべき役割が非常に大きい。」と述べています。下記は、令和２年度「学校図書館の現状に関する調査」（文部科学省）の一部です。

【学校図書館の活用及び読書活動の状況】

（１）１人当たりの年間貸出冊数　　**小学校４９冊**　　中学校９冊
（２）全校一斉の読書活動の実施状況　　**小学校 90.5%**　　中学校 85.9%
（３）全校一斉の読書活動以外の読書活動の取組及び読書活動推進のための取組実施状況
小学校 97.6%　　中学校 82.3%
（４）（３）の内訳

	図書の読み聞かせ	読書会の実施	ブックトークの実施	書評合戦（ビブリオバトル）実施	必読書・推薦図書コーナーの設置	目標とする読書量の設定
小学校	**95.0%**	**14.1%**	**35.6%**	**10.2%**	**79.4%**	**50.0%**
中学校	35.1%	4.9%	22.9%	23.5%	84.5%	22.8%

（５）授業における学校図書館の活用状況

	国語	社会	総合的な学習の時間	特別活動
小学校	**94.7%**	**72.6%**	**86.7%**	**36.6%**
中学校	72.8%	23.8%	65.9%	29.7%

（６）地域との連携に関わる取組の状況

	ボランティアと連携している学校の割合	公共図書館と連携している学校の割合
小学校	**78.7%**	**86.0%**
中学校	27.9%	65.4%

以上の結果から、小学校では多くの場面で学校図書館が活用されていることがわかります。令和２年度にも同調査の福島県の結果を学校教育課通信で紹介しましたが、県南地域でもたくさんの小学校において全校一斉読書を含め、様々な読書活動が積極的に行われています。また、１ヶ月の読書冊数が１～６学年あわせて１０冊以上の学校が１６校もあり、増加傾向となっています。（その中でも白河市立釜子小学校は２６冊となっています。）

一方で、授業における学校図書館の利活用はいかがでしょうか。国語科の授業では、関連読書等も含め、積極的に活用されていますが、その他の教科ではどうでしょうか。新学習指導要領のポイントの一つとして、カリキュラム・マネジメントが挙げられておりますが、今後の目標として、学校図書館が教科横断的に活用され、学校図書館＝「読書センター」という認識から、「学習センター」「情報センター」としての機能も果たしていくことが求められています。まずは、先生方が学校図書館に足を運び、「〇〇に関する本はこれだけある」や「〇〇の単元で使う資料が足りないから学校司書の方にお願いしよう」など様々な視点で自校の学校図書館を見ていただければと思います。

学校図書館を活用した授業例

教科横断的な学習活動を取り入れた授業例　**～滑津小学校４学年　金澤先生の実践例から～**

第４学年　国語科『アップとルーズ』

理　科『体のつくりと運動』～人以外の動物の体のつくり～

【実践のポイント】

○　国語科、理科それぞれの教材で「身に付けさせたい資質・能力」を明確にする。

○　二つの教科で「資質・能力」を身に付けるために横断的な学習を実施できることを確認する。

国語科	理科
○　説明的な文章を構成する段落の役割を理解し、段落相互の関係に着目しながら筆者の考えとそれを支える具体的な例との関係を捉える力 ○　文章を読んで理解したことを、自分の体験と結び付けるなどして自分の考えを持つ力	○　骨のつくりと関節について捉える力 ○　筋肉のはたらきを捉える力 ○　既習の内容や生活経験をもとに根拠のある予想や仮説を発想して表現する力

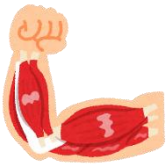
・段落と写真の対応関係について気付かせる。

・「アップ」と「ルーズ」（具体的な例）を対比しながら説明することで自分の考えがより説得力があがることに気付かせる。

自分が興味のある「動物」と「人」の筋肉やからだの動かし方を対比して説明する「理科新聞」作成

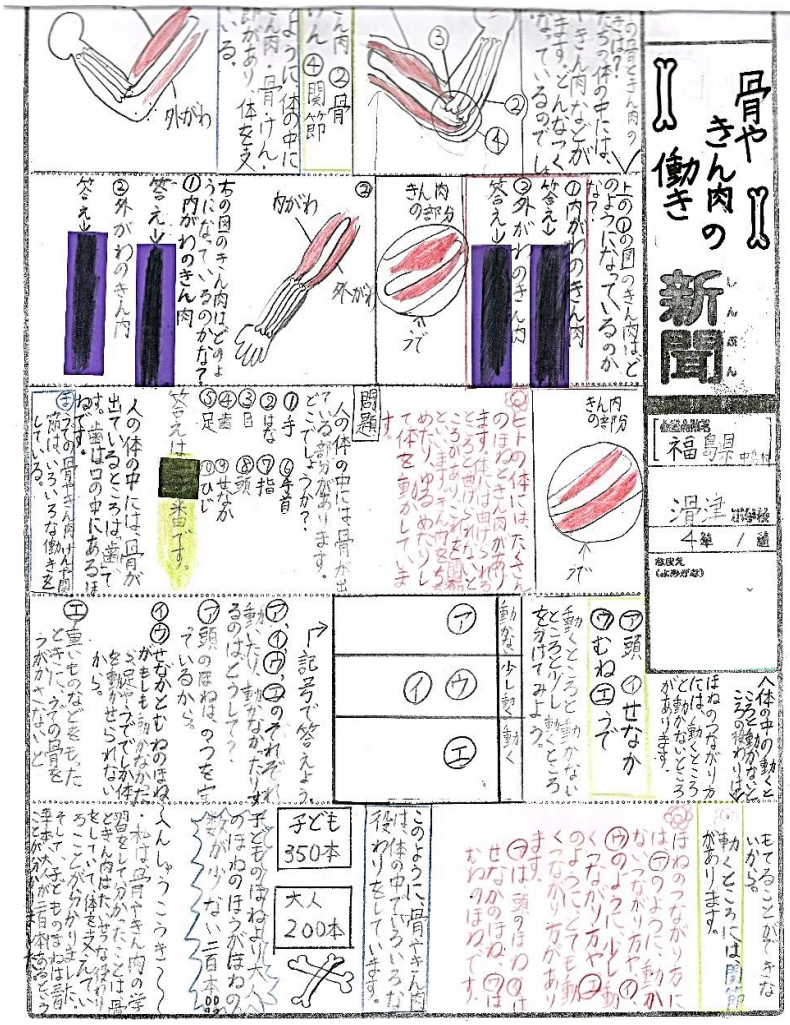
○　学校図書館を活用し、本や一人一台端末で調べたことをもとにしながら「理科新聞を作成する」という言語活動をゴールとすることを伝える。

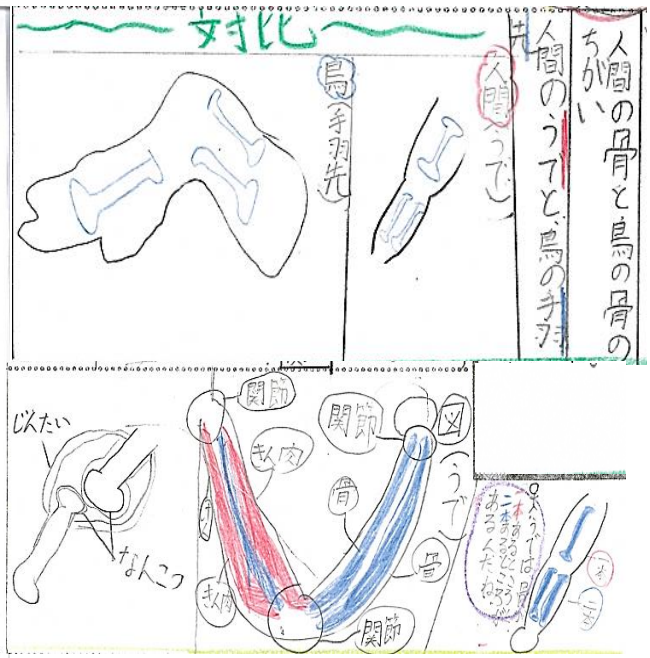
※　国語科で学んだ「効果的な説明の仕方」を活用して「理科新聞」を作成する。



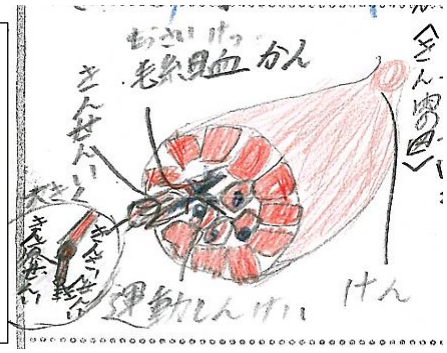
○　学校図書館司書と連携を図り、必要な本を公共の図書館などからも準備してもらう。

【子どもたちが作成した理科新聞】





理科新聞づくりでは,国語科で学習した資料を掲示することで，新聞の作り方や説明文の「対比」などを積極的に活用して作成することができた。



令和３年度　全国学力・学習状況調査問題（国語）より～学校図書館を使った調べ学習～

【1　興味をもった人物について調べ、スピーチで紹介し合う場面の設定】

設問二　資料を用いた目的を理解することができるかどうかを問う問題

設問三　目的や意図に応じ、資料を活用して話すことができるかどうかを問う問題

全国・県と比べ、県南域内の正答率が低かった問題

☆この出題から読み解く『今、求められている力』とは……？

○　自分が「伝えたいこと」（話の内容）が明確になるようなスピーチの構成
（目的に応じて事実と感想、意見とを区別すること）

○　自分が「伝えたいこと」を明確に伝えるための資料活用
（相手や目的を意識し、伝えるために「何の資料」を「どのように提示」するか判断すること）

○　相手に応じた必要な情報の収集、取捨選択
（「何が聞きたいか」を想定して情報を収集し、その中から「必要な情報」を価値づけすること）

「話す・聞く」場の意図的設定

学校図書館、１人１台端末の活用本・新聞、インターネット等）

情報の取捨選択
→提示の仕方の工夫
「重要な語句」の取り出し
→「読む力」とも関連

１人１台端末を使った「録画機能」による相互評価
→原稿の推敲、構成の検討

「学校図書館（本・新聞等）」と「一人一台端末」の効果的な活用

※情報を取り入れる媒体のそれぞれの利点と欠点を踏まえ、どの場面で何をどのようにバランスよく活用するかを考えることが重要！！

※　以上のことを意識して２学期の授業を実践すると……

学校図書館及び公共の図書館の活用
→「開かれた教育課程」

国語科教材における学校図書館と一人一台端末を活用した授業例

第５学年　「やなせたかし～アンパンマンの勇気～」

【学習目標】

①　教材をとおして、「伝記の読み方」を学習する。

②　①で学習したことを活用して進んで「読書」に親しみ、読書が、自分の考えを広げるのに役立つことに気付く。

【学習のポイント】

①　学習のはじめに言語活動（自分の興味のある人物の伝記を読み、互いに紹介し合う活動）を提示し、学習の見通しを持たせる。

②　①の後、事前アンケートで誰の伝記が読みたいかを把握し、その結果を学校図書館司書に伝え、公共の図書館と連携を図り、子どもたちが読みたい本をできるだけ準備する。

※　学校図書館司書が不在の学校は、公共の図書館と直接連絡することも可能

③　国語科の授業では、「何が」「どのような順番で」「どのように書かれているか」を理解する。

④　学習する中で「自分が読んだ伝記を友だちにプレゼンテーションする」ために、どんな情報を、どんな風に書けばよいか考える。

⑤　並行読書で伝記を読み、プレゼンテーションで相互評価する。

Google スライド（プレゼンテーション機能）を活用した相互評価

次号では、「生徒が訪れたくなる図書館」について具体的な取組を行っている学校紹介を行う予定です。